

# いわいしま通信

## 新しい年を迎えて

事務局長 國弘 秀人

祝島ネット21会員の皆様、明けましておめでとうございます。

令和4年のお正月、年末の時化から一転して、祝島は穏やかな新年を迎えました。元日の朝、7時20分頃、辺りをオレンジ色に染めながら、八島の向こうから初日が昇ってきて、その神々しさに思わず手を合わせて拝みま



令和4年の初日の出

した。祝島の朝日はいつも美しいですが、やはり初日の出は気持ち的に別格ですね。清々しい年の初め、皆様にとって今年が良い年になりますようにと願っております。

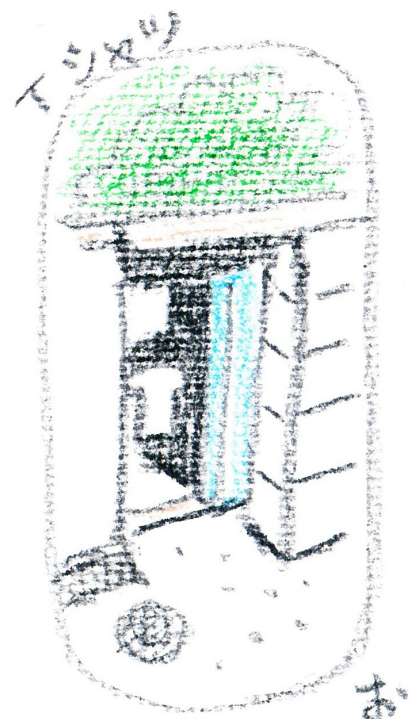
さて、新型コロナ感染防止のため、昨年も多くイベントが中止になり、オンラインのみの開催となり、また会員の皆様に島を訪れていただくこともできず、活動が思うように出来ない状態が続いておりますが、そんな中でも、工夫しながら活動を続けていけるように、力を合わせ、アイデアを出し合っていけたらいいなと思っております。私事ですが、いよいよ今年3月には還暦を迎えます。祝島ではまだ若手なので、気持ちは若いつもりですが、身体の方はいろいろとガタが出てきております。老体に鞭打って、今年も頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 祝島のコロナ対策について

コロナ禍の中で迎える二度目のお正月、昨年10月以降は全国的にコロナ感染者数も減少し、祝島自治会でも11月10日～1月10日までの2か月間は、島の出身者の帰省自粛を解除して、久しぶりに帰省された方々の声で少し賑やかになっていました。しかし、年明けから山口県内では米軍基地のある岩国市を中心に、コロナ感染者が急拡大。全国的にも感染者数がみるみるうちに増えてきました。1月8日に開催された祝島自治会役員会において、1月11日～3月10日までの2か月間、再び島の出身者にも不要不急の帰島自粛をお願いすることになりました。もちろん、一般の方にも引き続き来島の自粛をお願いしております。ご協力よろしくお願いいたします。

## 目次

新しい年を迎えて	1
祝島のコロナ対策について	1
祝島・記憶の玉手箱	2
会員リレーコラム	4
グリーン・エージに寄稿	5
千客万来	6
山田イサオ写真館	7
「練塀」復活物語	8
祝島自由律俳句	9
にこここ農園だより	10
絵つき一覧覧会	11
第2回オンライン交流会	11
お知らせ&募集	12
編集後記	12



「祝島物語」 画・大井しげる

## <連載> 祝島・記憶の玉手箱(26)

## ～ 昔のお正月 ～

語り部: ちーちゃん、まーに一さあ

島のお年寄りに、毎回違うテーマで昔の祝島の様子を話していただく「祝島・記憶の玉手箱」シリーズ。今回の話題は、「昔のお正月」です。ちーちゃん(97歳)と、まーに一さあ(85歳)に、昔のお正月について語っていただきました。

**司会:** 今日、昔のお正月の話をお聞かせ下さい。

**ちーちゃん:** 昔の正月は、あんたあ。ここは昔は旧じゃったんじゃけえ。旧正月。

**司会:** いつごろまで旧正月だったんですか？

**ちーちゃん:** そうじゃねえ、終戦後くらいか、昭和の10年くらいかも知れんねえ。よそは前から新正月になっちょろう。働きに出ちよる者が、正月休みにここ(祝島)に戻ってきても、ここはまだ旧でやりようたんじゃけえ何にもあるまあ。ほいて旧正月にゃあ、よそは休みじゃあないけえ、戻り手があるまあがね。それで祝島も新正月をせ始めたのいねえ。

**司会:** なるほど、そういう理由だったんですね。昔のお正月で、今と違うことはありましたか？

**ちーちゃん:** 昔は、学校の生徒も、おいかった(多かった)ろう。そいたら先生もおいかりう。「百足(ひゃっぴき)」言うちやあねえ、なろうた(習った)先生に皆、5銭か10銭か包んでねえ、正月に挨拶に行きよったんで。

**司会:** 先生にお金を持って行ってたんですか？

**ちーちゃん:** そうそう、そうしたら、はあ先生の方が、盆を上がりはなに出して待ちよるの。(笑)

**司会:** あはは、そうなんですか？

**ちーちゃん:** 校長先生には全部の生徒が行きよった。

**司会:** へー、それはすごい数ですね。

**ちーちゃん:** はあはあ。そりよう持っちゃあねえ、年始に行きよったの。1月1日の朝。それは新正月に。

**司会:** 「新正月」って言うんですね。僕たちは普通に正月って言うけど。

**ちーちゃん:** 正月飾りやらは全部、旧正月にせよったんじゃけえね。

**司会:** とところで、当てもお年玉はもらってましたか？

**ちーちゃん:** 先生は百足いうてもらいよったが、子どもはもらわんよ。お年玉をもらうというのはなかった。

**まーに一さあ:** わしらももらわだった。終戦後で物が無い時代じゃったけえねえ。

**司会:** そうなんですか。僕たちの子どもの頃には、もうお年玉もらってましたよ。

**ちーちゃん:** 次第になにいねえ、よその真似をし始めたんじゃあ。その代わりねえ、菓子袋はもらいよった。よう使いをさせらりようたけえ。天草の所に二階家があって、若い衆が皆集まりよったのいで。天草倶楽部いうてね。それで祭やら正月には用足しをせてやりよったけえねえ、菓子袋をもらいよった。煎餅やらポー口やら入っちょった。

**司会:** そうですか。

**ちーちゃん:** 正月言うたら、12月の30日にゃあ豆腐を炊あたり、石豆腐をね。餅も30日につきよった。31日にゃあ飾らんにゃあならんけえ。

**司会:** そうそう、祝島は31日に飾るんですよ！本土の方では、「一夜飾り」は良くない言うて、30日に飾るようなんですが。

**ちーちゃん:** 祝島は今でも、31日に潮をみてね、満ち潮の時に飾るんよ。そして、井戸のある家は井戸に注連飾りをしたり、百姓家にゃあ牛やらがあるけえ、「牛のベロ」いうて、これがいな長い餅を飾りよったんよ。丸いんじゃあなあんよ、餅を流して牛のベロのようなのを作って、そりよう飾りよおったんよ。

**司会:** へえ、それは牛小屋に飾るんですか？

**ちーちゃん:** いいや、床の間に飾るの。ほいじゃけえ、飾る家にゃあ、床の間いっぱいになりようたけえ。井戸は注連縄をね、もろ葉を付けて、橙をつけて飾りよった。大きい井戸のところは長い注連縄を作りよった。ぐるりと周りに巻くんじゃけえ。

**司会:** へえ、今はポンプのところは輪飾りを付けますよね。

**ちーちゃん:** そうそう。ほいじゃが昔はポンプが無かったろう、つるべで水を上げよったんじゃけえ。

**司会:** ああ、そうか。なるほど。

**ちーちゃん:** ほいて嫁に出た人はねえ、年末にゃあ、

実家に挨拶に行きよったんよ。「さかい重」いう重箱に、米を一升と餅を5つくらい詰めて持って行きよったんで。そりゃあ、だいぶ昔の話よ。

**司会**：昔も、お節料理とかは作ってたんですか？

**ちーちゃん**：それがいなあ作らん。つい、煮しめいね。豆腐を炊いて、小芋やろ・・よっほどの家でなけりゃあ、蓮根いうたりせるなあ買やあせん。

**まーに一さあ**：煮しめを温めた後に、餅を入れて雑煮にせよった。

**ちーちゃん**：そりゃあ、今も昔も同じいねえ。「餅をなんぼお食べるか？」言うて訊いちゃあ、食べる程餅を入れよった。ゆるい（囲炉裏）に掛けちよっちゃあ炊くんじゃけえ、てんでにそりょう引っ張りおうちゃあ食べよったあ。

**まーに一さあ**：今みたいに細うなあ（小さくない）、昔の餅は太かった（大きかった）んで。

**ちーちゃん**：どこの家でも、あんたあ、ジザイ（自在鉤）言うてから、ゆるいの上にそれが下がちよって、先がカギになちよって、鍋をそれにかけてぶら下げよったんじゃけえ、昔の鍋にゃあ、みな下げられるように取っ手が付いちゃったろう。

**司会**：なるほど。ところで、初詣には行きましたか。

**ちーちゃん**：いいや、わしらあ正月じゃけえ言うて、どこに参るいうのもなかった。ほいじゃが、漁師はお宮に参りよったで。お宮の世話人やろはね。お宮も大つもごりにゃあ、参った者らが除夜の鐘まで、わいわい話しちゃあせよった、お寺も。

**司会**：みんながお宮に参るんじゃなかったんですね。

**ちーちゃん**：子どもは、学校に行きゃあ、学校で式があるんじゃけえ。

**司会**：お正月に？

**ちーちゃん**：正月に。みな教室を開けてねえ、天皇陛下のお写真を

飾ってねえ。昔の学校は、舞台を作ってたのいね。そして、戸がこう閉まっちゃうのいね。そいて式とかの時にゃあ、



お宮（宮戸八幡宮）には主に漁師さんがお参りに行っていらしい

その戸を開けるんよ。式やろがあろう、天長節やろ、明治節やろねえ。ほいて、勅語を読む間、こういて頭あ下げちよった。「君が代」を歌うて。

**まーに一さあ**：何が飾っちゃうるか思うて、わしらあこうやってちいっと頭あ上げて見よったあ。

**ちーちゃん**：その勅語を教頭先生が読むのいね、白い手袋をしてからこうやって。その間あ、こういて頭あ下げてかごうじよくの。

**司会**：その勅語って教育勅語のことですか？

**ちーちゃん**：それぞれ。「朕オモウニ・・」言うちゃあ読み出すのいね。その頃にゃあ覚えちよったんじゃあがねえ。

**司会**：すごいですね。

**ちーちゃん**：他にゃあねえ、旧正月をせる頃、昭和の初めくらいまでかねえ、若い衆が子どもを4~5人連れて、これがいな丸い石に縄をつけてつき歩きよった。そりょうつかしちやあ、菓子をもろうたり、銭をもろうたりしよったんじゃあ。

**司会**：「亥の子」のようなもの？

**ちーちゃん**：そうそう、亥の子。「亥の子、亥の子、亥の子の晩に〜♪おにようめ、ちゃうめ」いうて、連れ歩きよった。引っ張ちやあ、落として。今度はどこの家に行こうか言うて決めよった。

**司会**：それをお正月にやってたんですか？

**ちーちゃん**：旧の小正月（1月15日）にね。玄関の前に今は皆セメントを張ちよろうがね、昔はどろじゃったけに、そこに庭石いうのが1個ありよおったんよ。その上に落としようたの。

**司会**：「亥の子」は何のためにやってたんですか？

**ちーちゃん**：何じゃったんか、そりゃあ知らん。

**まーに一さあ**：菓子やろをもらおう思うてやりよったんじゃろう、ははは。

**ちーちゃん**：一軒一軒じゃあなあが、「今度はどこの家に行こうか」言うちゃあ連れて行きよったんよ。

**まーに一さあ**：菓子やらくれる家に行きよったんじゃろう。ははは。

**ちーちゃん**：くれんような所にゃあ行かんいねえ。

**司会**：そうですよね（笑）。まだまだ面白い話がありますが、今日はこの辺で終わりにしましょう。どうもありがとうございました。

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。今回は、祝島出身で、祝島ネット21発足時からの会員、岸本智恵美さんです。



岸本智恵美さん（ノイシュバンシュタイン城にて）

祝島は私のパワースポット！

### ◎祝島ネット21

「次回の会員コラムリレーの原稿よろしく」という連絡に、「ついに来たあ」と感慨深い思いになりました。というのも『祝島ネット21』は創立20年。今思えば、2000年、原発問題でしばらく開催されていなかった神舞が12年ぶりに再開されて3回目の神舞のとき、島のおじさんたちが勇ましく生き生きと神舞小屋の準備をしている姿を眺めながら、「島を離れた若者が、島のために何かできることはないかねえ…」と、すでに若者でない私は、一緒に見ていた秀人さんにポツリとつぶやきました。大手IT企業を辞めて祝島に帰ってきたと聞いて、「ネットで繋がっていたら必要なときに何かできるじゃあ。秀人くん立ち上げてよ!!」と、思わず言いました。「そういう思いの人が他にもおるんじゃあ。」と、すでに祝島ホームページを作っていた秀人くんは、何と半年後のお正月に実行に移してくれました。あれから20年、悲しいかな「言い出しっぺ」の私は「うれしい会員」として会員リストの上部に名前だけ連ねてきました。最初の数年こそ、「祝島弁を英語にしたら面白い!!」と『Dennis in Iwashima』といういなげな(変な)漫画を描いていましたが、忙しさに負けて途中で挫折しました。けれど、それ以後もずっと会報を発行し祝島の情報を発信し続けてネット21を支えて下さった会員の皆さんには本当に頭が下がります。また、発端となった神舞に、『祝島ネット21』として毎回寄付という形で関

わっていることにも感謝です。いつもお客様で気楽に楽しく会報を読んでいた私も、初登場となった今回ばかりはそうもいきません。さて、頑張ろう。

### ◎祝島は別世界

夏休みに都会から帰省した子どもたちが『祝島は別世界や』と言いました。目の前の海で真っ黒になって泳いだり、迷路のような島を走り回ったり探検したり、畑から採りたてのスイカやトウモロコシを頬張ったり、都会では高級なサザエやアワビや新鮮な魚をおおきなく食べたり…。そんな祝島での生活は都会の子どもたちにとって夢のようだったのでしょ。私たちが幼かったころ、その豊かさに気づかず当たり前だと思って暮らしていました。都会に出て数十年が経ち、歳を重ねてやっと「昔は、なんて豊かな生活をしていただろう。」と気づきました。今でこそ多くの人が求めている『サステイナブル(持続可能)な生活』は、昔からずっと祝島にはありました。

ハートの形をした小さな島には、手つかずの自然の中に、海や山の豊かな恵み、そこそこで響き渡るおじんやおばんの大きな声、芸人顔負けの笑い転げるようなおもしろい話、そんな日常が当たり前がありました。だから、都会であくせく働き心身ともにすり減ったとき、祝島の空気は全てを浄化して『素』に戻してくれました。難しいことを考えず大笑いして、「これで半年がんばれる!!」と力をもらって再び本土へ送り出してくれました。そういう故郷があることはとても幸せなことです。しかし、私たちの世代が知らないだけで、島の人たちは長い歴史の中で厳しい自然と向き合い、一生懸命生きてきたのだと思います。そういう



約30年前の祝島中卒業生同窓会  
(前列縦じまのシャツが岸本さん…あ、藪本さんも!)

島の人たちだからこそ、1200年の神舞神事も大切に受け継いでこられたのだと思います。また、原発問題では、国や電力会社という巨大な権力に対しても、ひるまず真実から目を背けずひたむきに真摯に対峙してきました。私はそういう、おおらかで楽しくて、賢明で強い島のおじん、おばんたちを心から尊敬しています。そんな祝島に産み育ててくれた親には心から感謝しています。そんな祝島も、今や人口が350人を切り、年寄りと猫の島と言われることもあります。島の豊かさは全く変わりません。いつでも誰でも優しく温かく迎えてくれます。そんな島のために、これからほんの少しでも何か恩返しができるとうれしいと思っています。

## ◎自己紹介

自己紹介が最後になりましたが、私は、現在奈良在住で64歳の祝島出身者です。小学生の頃、夏は毎日、海で飛び込んだりもぐったりして1日中泳ぎ、前か後ろかわからないほど真っ黒に日焼けしていました。『たぬきらさん』というおかしな歌に合わせて、波止から飽きもせず繰り返し飛び込んで遊んだ日々が懐かしいです。中学校時代、美術の時間に西寺先生が「今日は木村の山に行って絵を描くぞ」といって山で遊び、「今日は浜に行ってスケッチじゃ」といって海



小学校2年遠足 真方先生と  
(ひえ～、56年前になるよ。おそろしい!!)  
(前列の左から2人目が岸本さん?)

をこぶって遊ぶ(こぶる＝裸足で歩き回る)という夢のような学校生活を送っていました。そんな自由で楽しい島生活を送った野生児だった私は、その後、東大阪市で中学校教師として36年間勤め、5年前に退職しました。現在は、大阪大学で非常勤講師として教師を目指す大学生に、祝島のことを自慢しながら教職を教えております。

コロナ禍でなかなか島には帰れませんが、いつかコロナを気にせずみなさまと祝島でお会いできる機会が来ることを願っております。

## 「グリーン・エージ」に祝島紹介記事を寄稿

國弘 秀人

一般財団法人 日本緑化センターの発行している月刊誌「GREEN AGE (グリーン・エージ)」2021年12月号に、祝島の紹介記事を寄稿させていただきました。

「グリーン・エージ」は45年以上の歴史を有する、緑化に関する総合情報誌です。1年ほど前から、「みりよく・あふれる「島」めぐり」という連載記事で、日本各地の島の魅力を現地の人に発信してもらおうという企画を行っています。いつもお世話になっている日本離島センターの方からの紹介により、記事の執筆を依頼され、連載の第7回目にして祝島の登場となりました。タイトルは「祝島 ～瀬戸内海に浮かぶハートの島～」で、祝島の歴史、神舞神事、石積みの練堀、平さんの棚田、北野の桜、

こっこーなど、カラー写真入り4ページで紹介させていただきました。機会がありましたら、ぜひ読んでみてください。

購入されたい方は、日本緑化センターのWebサイトで注文できます。(1冊800円 税込み)

<http://www.jpgreen.or.jp/>



「グリーン・エージ」2021年12月号

2022年、明けましておめでとうございます！

昨年末の荒天が嘘のように穏やかな天気恵まれたお正月三が日でした。新型コロナの感染状況が多少収まってきていたこともあって、2か月間だけ祝島出身者・家族に限り、帰島がOKだったので、静まり返った昨年のお正月に比べると、ほんの少し賑やかで、おじちゃんおばちゃんに明るい笑顔が見られたことは何よりでした。「お久しぶりです～」と、お店に顔を見せてくれた広島、福岡、大阪などから帰省された皆さんもまた嬉しそうな笑顔でホッとしました。

さて、話は昨年末に遡り、お節料理の注文数が、なんと24人分。お店に貼ってあったチラシを見て注文された方もいれば、「昨年頼んだら美味しかった」と再注文された方、人伝に聞いて頼んでくださった方と、いろいろでしたが、これまでで最高の注文数だったこともあって、28日に買い出しを済ませ、29日から準備に取り掛かりました。じつは、お節とは別に、「あんたの黒豆が、うまかったのや」と、昨年の黒豆の煮方を褒めちぎってくださった家からは、黒豆5パックの注文まで入ってしまって嬉しい悲鳴。黒豆を煮ること自体、難しくはないのですが、なんせ時間がかかるので気が落ち着かず、まずは黒豆から始めたのでした。30日にはなますを作ったり、煮しめを煮たり、寿司の具を炊いたり、と1つのことをしながら、あれもこれもと、手を休める間がないほどでした。猫の手よりもとっても役に立つ「秀の手」も、しっかりお手伝いしてくれたので本当に助かりました。31日は、ほぼほぼ詰める作業だけになっていて、お昼過ぎから、この「手」は、雪のちらつく寒い中、近所は走って周り、遠くはバイクでビューンと、配達にも



ずらりと並んだお節料理のお膳



店主の手作り注連飾り

行ってくれました。午後2時頃からは、お節の受け取りに来られるお客さんと、買い忘れたものがあるお客さんとで、ちょっとバタバタしましたが、2021年、くにひろストアの賑やかな店じまいでした。

年末の頼まれ物で、お正月用のお飾り餅の予約は、ここ数年恒例となっているのですが、今年は注連飾りの予約が増えたようでした。これまでは、手作りの注連飾りが当たり前だったのに、作らなくなった理由として、米作りをする人が居なくなり、藁が手に入らなくなったというのが大きな理由ではないかと思われま。す。「いつもは姉がねえ作ってくれよったんじゃが、居らんようになったけえねえ」と、寂しそうに注文されたおじちゃん。「そうそう、おじちゃんのお姉さんは、うちのお父さんと同級じゃったよねえ」と。来年は、藁とウラジロと橙を調達して、店主が作ったものを販売するのもいいかも、と思ったりもしました。

さて、年明けは、いつもお餅を食べるので、パンや牛乳が売れ残っていたのに、なぜか今年はパンや牛乳を買いに来る人が多くて売り切れ状態。「みんな餅に飽きたんじゃろう」と、店主と笑いましたが、ふと、飽きたというより、そもそもお餅をつかなくなったのかもしれない。「一晩寝て起きたら正月。何が変わるわけでもないし」なんて言いよったおばちゃんも居られたし、「あんたとこで、餅をついて売りゃあええ」と言うおばちゃんも居られました。伝統とされてきたものが、年々削られていくようで寂しい気もしました。しかしながら、高齢になった一人ひとりでは、縦のものを横にすることさえ、難しくなっていることを実感する今日この頃です。

このところ、金・土・日の週3日は必ず惣菜を作っ

ているのですが、月曜日はご飯ものだけ。親子丼や炒飯、カレーなどにすることが多いです。「ええにおいをさせるのや！」と入って来たおばちゃんに、「今日は月曜日で、作ったのは炒飯だけなんよ。それも売切れてしもうたわあ、ごめんねえ」と答えると、「そりゃ残念じゃあ。人が作るの美味しいし、めずらしいもんが食べられるけえ嬉しいんじゃあ。まあ今日は餅でも焼いて、エンカで食べよう」と。「お餅を何で食べようって？」と、訊き返すと、「祝島ことばじゃけえ、知るまあ。餅を焼こうがね、それにお茶をかけて食べるんじゃあ。そりょうエンカで食べる、言うの」「どんな字を書くん？」「知らん～昔からそう言いよるだけじゃあ」と、笑われました。その食べ方なら、わたしも子どもの頃からして、今もそうやって食べるのが好きなので、「わたしもしよったよ。焼いたお餅を茶碗に入れて砂糖とお茶をかけて食べよった。ちょっと焦げたところがふやけて美味しいんよ

ねえ」というと、「そうそう、焦げた方がお茶が香ばしゅうて美味しかった。子どもには砂糖を入れちゃりよったねえ」と。もちろん、店主も砂糖入りを好んで食べますが、あの食べ方に名前があるとは、びっくりです。「うちは、大人になっても砂糖を入れよるわあ。また金・土・日にはおかずを作るけえ寄ってみてえね」というと、「楽しみじゃあ」と帰って行きました。昔は何でもマメに作るおばちゃん、お寺のお齋(とき)を作ったりするのも1から教えてもらったりもしました。「最近、横着になってねえ、なんも作らんようになった」と言われるのを聞くと寂しいですが、長い長い働き通しの人生の終わりくらい、ちょっとはのんびりされたいいなあとも思うのです。明日は何を作って、みんなに食べて貰おうかと張り切る惣菜部です。

これからも、みんなが喜んでくれるくにひろストアでありたいと、年頭に思う二人です。

## 山田イサオ写真館(18)『嫁ぐ日』

山田 イサオ

このコーナーでは、写真家で祝島ネット21会員の山田イサオさんの写真を毎回1枚紹介しています。

山田イサオさんはモノクロ写真にこだわり、祝島では人物を中心に撮影をされています。

### 『嫁ぐ日』

旧定期船乗り場近くで  
バイクの荷台に  
たくさんの花が積んであった。

私の知っている人のバイク？  
どこに持って行くのかな？  
色々想像出来る写真は楽しい。



祝島と言えば「練塀」、と言われるほど、集落の至るところで見られる、どっしりとした白い石積み練塀ですが、民宿くにひろには、この練塀がありませんでした。ただ、練塀でもないのに、塀の上には屋根瓦が載せてあって、不思議には思っていました。その瓦が欠けたり割れたり、漆喰が剥がれたり・・・道に落ちると危ないし、見栄えも良くないので、修理してもらうことにしたのが昨年11月半ば。気のいい、もちろん腕もいい職人さんをお願いすると、二つ返事で「やっちゃうで」と。



塀の瓦が欠けたり漆喰が取れたりしていたので修理をお願いすることに

まずは瓦探しから・・・解体した家の瓦で余ってるのがあったら譲ってもらおうかと探してはみたけれど、ありそうでない・・・そんな折、田布施の実家の畑の横に土留めとして積んである瓦がふと目に留まり、結果、それを買って島に運ぶこと60枚！「ええのがあったのう」と、職人さんに褒められ、さっさと瓦は載せられて屋根がきれいになっていきました。修繕が終わりに差し掛かった頃、今度は塀のひびが気になって、職人さんに尋ねると、「あちこちひびが入（はい）ちよって浮いちよるけえ、ちよいと叩いたら割れて落ちるのお」と。「瓦が載ちよるってことは、昔は練塀じゃったんかねえ？壊してみたら練塀が出てくるじゃろうか？」と訊いてみると、「たぶん練塀じゃろう思う。めいでも（壊しても）ええんなら、めぐ（壊す）ど」と言われたので、「めいでもええよ。その代りきれいに直してね」とお願いしたのでした。練塀であろうがなかろうが、直せる人が居ってうちに直してもらっておかないと、と思ったのです。

12月初め、ハンマーでコツコツ叩いてみると、い

とも簡単に洗い出しの塀が崩れて、その中からは、思いのほか見事な練塀が顔をのぞかせたのでした。しっかり張り付いていた部分は、ドリルのようなもので打ち壊され、道側の面だけでなく、庭を取り囲んでいる面なども、表面を剥がしてみると、すべての面からそう傷んでもいない練塀が出てきたことに、またまたびっくりでした。「ええのが出たのう。きれいに



塀の中から練塀が顔をのぞかせた！



表面の洗い出しのコンクリートを剥がしていく



土が落ちている箇所はモルタルで埋めて漆喰で石の間をきれいに塗り、最後にハケで仕上げ



塗っちゃうけえのう」と、職人さんも心なしか嬉しそうでした。自分の手できれいに仕上がっていくのは嬉しいことだと思うし、それだけ仕事に誇りを持たれてるんだなあとも感じました。仕事は丁寧だし手早いので、どんどんきれいに変わっていく様子を、ちょこちょこ見に出ては写真を撮っておきました。こういう作業ができる職人さんも少なくなってきたようだし、記録に残しておいた方がいいと思ったのです。

年の暮れも近づいてきた頃、よそ行きから戻ってきたら、庭がえらく静かなのでのぞいてみると、すでに完成したようで、ぐるりと見て回り、これがうちの練塀！と実感し、「ほお〜」とか「おお〜」とか、二人で感動したものでした。

小さな庭ですが、三方を練塀に囲まれ、趣のある石灯笼、いい感じに並んだ庭石と、民宿の縁側から眺めると、風情のある風景となりました。あとは、庭の松の木の剪定しなければ・・・と、ちょっぴりプレッシャーを感じている主ですが、本当に嬉しそう・・・。

半世紀以上の眠りから覚めた練塀、この先ずっと大切にしていこうと思います。



立派な練塀が復活した！

## 祝島自由律俳句(7)

山口県防府市出身の俳人・種田山頭火。彼の作った俳句は、五七五の定型にも、季題にもとられない自由な表現が特徴の自由律俳句といわれています。このコーナーでは、読者の皆さんから「祝島」をテーマにした自由律俳句を投稿していただき、毎回その中から何句かを紹介させていただいております。

自粛明けひさしゅうの声溢れけり  
毎日の何じゃろうかと土いじり  
返り花山海めでて住んじよるぞ  
篠崎 彰

短日や定期船着く夕間暮れ  
島の香のレモングラスで中休み  
伊予灘や風より温し冬の海  
篠崎 幸恵

ひとひらの舞い落つ雪に笑みふたつ  
國弘 優子



読者の皆様からの投句をお待ちしております。テーマは「祝島」です。応募は、メールまたは郵送にて、応募作品／作品についてのコメント（あれば）／名前（ペンネーム可）を記入して事務局までお送りください。メールのあて先は [haiku@iwaishima.jp](mailto:haiku@iwaishima.jp) です。

今回、にこにこ農園では、ちょっとした実験を試みました。

イノシシの苦手なものを植えてみようということで、いろいろ調べてみたところ、「におい」に敏感なイノシシにとって、わたしたちが良い香りと思うものでも、きついと感ずることがわかりました。例えば、ニンニク、生姜、茗荷、唐辛子、ネギ、玉ねぎなどです（豚の餌を集めるときも、卵の殻とネギ・玉ねぎは集めませんでした）。また、ハーブ系の香りも苦手なようで、中でもカヤのように手が切れそうな葉のレモングラスを嫌うとも言われています。



耕運機で耕して



ニンニクを植えて



竹とスズランテープで畑を囲う

そこで、一念発起！初めてにこにこ農園に耕運機を運び、5m×15mほどの広さを耕し（9月29日）、ニンニクを200粒ほど植えてみました（9月30日）。イノシシ対策のための柵として本格的なものでは、電気柵やワイヤーメッシュ柵などがありますが、山の畑までの運搬や資金のことを考えると、はて・・・と考え、山にある竹で柵を作ろうということをおもいつきました。まあこれも、簡単なことではないのですが・・・。ただ、この畑もニンニクを植えたままでは、掘り返されるかもしれないので、それまで添え木として使っていた細くて頼りない竹を20本ほど囲うように立て、幅広の赤いテープ（スズランテープ）で、畑を囲っておきました。



草引き作業

そろそろ芽が出たかどうかと、にこにこ農園に上がってみたところ、なんと、奇跡かと思う光景に驚きました。倒されていた竹は1本だけで、畑も一方向に歩いただけのようで、掘り返された形跡はありませんでした。きれいに出揃っている芽を見て嬉しくなりました（11月7日）。ニンニクを植えた畑から、わたしたちはニンニクのにおいをほとんど感じませんが、きっとイノシシは、においを感じるのでしょう。実験は大成功です。

今年はなかなか秋を感じられず、12月に入っても暖かい日が多く、草が伸び放題。ニンニク畑の草も伸びていたため、様子を見がてら草引きに上がってみると、一歩早く、吉原さんが草引きを始めてくれたので、3人で草引き三昧。すっきりきれいになりました（12月20日）。

柵の外側は、相変わらずイノシシが掘り返しているので、少しばかり心配ではありますが、これから無事に育ってくれますようにと願うばかりです。

賑やかに繰り上げられる神楽の真っ只中。  
 苫で小屋掛けされた仮神殿の中央の柱に、鬼が突如  
 よじ登る。  
 扇を広げ、まるで下界の人間どもの所業を見渡し見  
 透かしているかのごとくに。  
 やがて三本の扇を下界の彼方や此方に投げ下ろす。  
 これをひらうと福がもたらされるそうな。  
 2016年（平成28年）神舞の時には、なんとわが家  
 家族がその一本を取りました！  
 おかげさまで、家族全体いつも幸せに過ごしており  
 ます！ ありがとうございます！  
 その時の扇がこれです！ 家の宝として、時折眺め  
 て大事にしております！



家宝の扇



『神舞 柱登りの場面』 油彩画 15P

## 第2回 祝島ネット21会員オンライン交流会を開催しました

2021年10月31日（日）午後2時から、「第2  
 回祝島ネット21会員オンライン交流会」を開催し  
 ました。コロナ禍で集まるのが難しいことから  
 始めたオンライン交流会、もともと会員が全国に  
 分散しているの、返ってオンラインの方が集まり  
 やすいのではないか、という狙いもあります。

5月に開催した1回目のオンライン交流会が平日  
 の夜だったので、2回目は休日の昼間に開催してみ  
 ました。参加者は5名と、ちょっと少なめではし  
 たが、和気あいあいとお話ができました。1名は映像  
 が映らず、チャットで文字だけの発言になった方  
 もいらっしゃいましたが、それでもお互いの近況  
 報告や、最近の話題などで盛り上がり、楽しく過  
 ぎすことができました。今回は事前にZOOMの有  
 料アカウント契約をしておきましたので、時間を  
 気にすることなく進めることができ、あっという  
 間に2時間半が経過していました。

オンライン交流会をこれまで2回開催してみても  
 の反省点として、皆さんの参加しやすい曜日や時間  
 帯などが、まだ手探りなのと、交流会に必要な  
 ZOOMのシステムについて、まだ使ったことがな  
 く、使い方もよくわからない方もいらっしゃるの  
 ではないかと思いました。会員同士の交流に役立つ  
 システムですので、今後も利用していきたいと思  
 っています。PC、スマホ、タブレット、どれで  
 もOK。使い方を知りたい、練習したいと考えてお  
 られる方  
 は、ぜひ事  
 務局までご  
 連絡くださ  
 い。できる  
 限り対応さ  
 せていただ  
 きます。



オンライン交流会のZOOM画面

## お知らせ & 募集

### ■2022年版カレンダーを作りました

毎年恒例の祝島カレンダー、2022年版は、会員アンケートの意見を取り入れて、「祝島風景カレンダー」と「島ねこカレンダー」の2種類を製作しました。

祝島島内では風景カレンダーを各家庭に1部ずつ配布、また、会員の皆さんには両方のカレンダーを2部ずつ（合計4部）配布させていただきました。1年間、ご愛用いただければ幸いです。まだ多少の在庫がありますので、必要な方は事務局までご連絡ください。



祝島風景カレンダー



祝島しまねこカレンダー

### ■アイランダー2021オンラインに参加しました

国土交通省と日本離島センターが主催する、全国の離島が集まるイベント「アイランダー2021オンライン」が、2021年11月20日～28日に開催されました。コロナ感染防止のため、昨年に続いて今年もオンラインでの開催になりました。今年は全国から85の団体が参加、山口県からは祝島の他に周防大島諸島と大津島が参加しました。会場に集まって直接お話ししたりすることはできませんが、オンライン交流イベントや、島からのライブ配信など、昨年より工夫を凝らした内容になっていました。

尚、アイランダー2021の参加者アンケート回答者へのプレゼントとして、昨年と同様に、祝島特産のびわ茶とイラストマップを、抽選で選ばれた10名様に送らせていただきました。



アイランダー2021  
祝島紹介画面の一部です

## 編集後記

12月に発行する予定の会報でしたが、年末のバタバタで1ヶ月延びてしまい申し訳ありません。年末号の予定が新年号になったので、「記憶の玉手箱」は、お正月らしい話題を取り上げました。お正月の行事や風習、昔と今とではずいぶん変わったものもあれば、今も引き継がれているものもあり、とても興味深かったです。会員リレーコラムには、祝島ネット21発足時からの会員・岸本智恵美さんが、満を持して登場してくださいました。岸本さんの文章からは、いつまでも変わらない「祝島愛」を強く感じました。ありがとうございます。さて、昨年末になって民宿くにひろに突然現れた練塀には本当にびっくりしました。私が物心つく前からコンクリートの塀だったので、まさかその中に練塀が隠されていて、こうして見事に復活するとは思っていませんでした。「2021年・我が家の十大ニュース」は何だろうと考えても、ヨメさんの還暦以外なかなか思いつかなかったのですが、歳も押し迫って一番ビッグな出来事になりました。新型コロナが終息した折には、復活した練塀をぜひ見に来てくださいね。

次号の発行は5月頃を予定しています。どうぞお楽しみに！

（編集長：國弘秀人）

※事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも

可能になっておりますので、ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

※祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。

入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。



お正月の井戸端

祝島ネット21会報「いわいしま通信」第66号

発行日：2022年1月20日（頒価400円）

発行者：祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>